

第一問（40点満点）

■採点の原則

①全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。

②漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「物」を理解するように自分を対象化して理解した、自分に関する客観的知識ともいえる、
B
C 深い自覚を伴わない
D 「ごく普通の自己認識」のこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「「物」を理解するように自分を対象化して理解した」…2点

■要素B 「自分に関する客観的知識ともいえる」…2点

■要素C 「深い自覚を伴わない」…2点

■要素D 「ごく普通の自己認識」…2点

■要素E…文末表現は「…こと。」という形が原則。「…認識。」「…理解。」なども許容。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自分ではない底知れぬ何かによつて
B 「自分がこの自分であること」に
C 不意に気づかされる、

D という形でもたらされる、深くリアルな自己認識のこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自分でない底知れぬ何かによつて」…2点

■要素B 「自分がこの自分であること」に」…2点

■要素C 「不意に気づかされる、という形でもたらされる」2点

■要素D 「深くリアルな自己認識」…2点

■要素E …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自分が本当は何ものかという認識が確かなものになればなるほど、
B そのような自分を生み出した根源的な偶然性が強く意識されるということ。

- 採点方法…各要素単独採点

■要素A 「自分が本当は何ものかという認識が確かなものになればなるほど」…4点

■要素B 「そのような自分を生み出した根源的な偶然性が強く意識される」…4点

■要素C …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・字数が一〇〇字に満たない場合、加点なし。
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点13点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A (私)という存在の根源にある偶然性は、
B 通常の自己認識とは異なる「かけがえのない私」と
C いう深くリアルな自己認識をもたらずが、その偶然性は自己認識に決して包摂されないため、
D 人は自己認識の確実性と偶然性との間を不可避的に揺れ動き続けるということ。(120字)

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「(私)」という存在の根源にある偶然性は」…3点

■要素B 「通常の自己認識とは異なる「かけがえのない私」という深くリアルな自己認識をもたらずが」…3点

■要素C 「その偶然性は自己認識に決して包摂されないため」…3点

■要素D 「人は自己認識の確実性と偶然性との間を不可避的に揺れ動き続ける」…4点

■要素E …文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 各1点×3 計3点

a 凝

b 過剩

c 従来

第二問 (一) 文科イ・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 10ページ、第1段落の傍線部(文科イ・理科ア)を現代語訳する問題。

・文末表現は、要素Cにあるとおり。

・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1 暫く案じぬれど、B1とかくC1詮せんなかるべし

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 しばらく考えたけれど、B1 どのにもC1 仕方がないだろう

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】 しばらく考えたけれど、

要素B【1点】 どのにも

要素C【1点】 仕方がないだろう

第二問 (一) 文工・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。

■ 問題 10ページ、第3段落の傍線部(文工・理科ウ)を現代語訳する問題。

■ 文末表現は、要素Bにあるとおり。

・句読点の抜け、書き誤りは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1言ひおほせて B2何かある

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1全てを言い尽くして B2何になるのか、何の甲斐もない

■ 採点方法 各要素単独採点。

■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【1点】全てを言い尽くして

要素B【2点】何になるのか、何の甲斐もない

第二問 (一) 文科キ・理科才 傍線部を現代語訳せよ。

- 問題 11ページ、第2段落の傍線部(文科キ・理科才)を現代語訳する問題。
- ・文末表現は、要素Bにあるとおり。
- ・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【3点】

■ 傍線部

A1何とて**B2**句には成り侍らざるらん。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1どうして**B2**句になっていないことがありましようか。

■ 採点方法 各要素単独採点

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【1点】どうして

要素B【2点】句になっていないことがありましようか。

第二問 文科(二)「文科のみ」

「思ひ誤る」(傍線部ア)とは、どのような思いが「誤り」だということか、説明せよ。

■ 問題 10ページ、第1段落の傍線部ア「思ひ誤る」についての内容説明問題。

・傍線部直後に、「先師といへども、帰り待つ夜興引よこひころの気色けしき知り給たまはずや(〓先師といっても、明け方に獣が帰るのを待つ猟師の様子は御存じないのではないか)と思った、と書かれている」を現代語訳して解答に使う。

■ 文末表現は「という思い。」「が望ましいが、「思い」の説明になっていればそれ以外でもよい。
・句読点の有無などは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 傍線部

思ひ誤る

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 師でも B3 猟師が山へ帰る獣を待つことを知らないのではないか、という思い。

■ 採点方法 各要素単独採点。要素Aには条件あり。

■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】師でも

要素B【3点】猟師が山へ帰る獣を待つことを知らないのではないか、という思い。

第二問 文科(三)・理科(二)

「初めて発句といふ物を知り侍る」(傍線部 文科ウ・理科イ)とあるが、どのようなことを思い知ったのか、説明せよ。

■ 問題 10ページ、第2段落の傍線部 文科ウ・理科イ「初めて発句といふ物を知り侍る」に関する内容説明問題。

・傍線の少し前に、芭蕉の「発句はかくの如くくまぐままで言ひつくす物にあらず」という言葉が書かれていることを現代語訳して解答に使う。

■ 文末表現は不問。 ・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 傍線部 初めて発句といふ物を知り侍る

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A2 発句は B3 隅々まで言い尽くすように詠むものではない、ということ。

■ 採点方法 各要素単独採点。要素Aには条件あり。 ■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】発句は

※要素Bが0点の場合(誤字等で0点になった場合は除く)は、要素A加点なし。

要素B【3点】隅々まで言い尽くすように詠むものではない、ということ。

第二問 文科(四)・理科(三)

「じだらくに寝れば涼しき夕哉」(傍線部 文科才・理工工)の句は『猿蓑』の入集することになったが、どのような点がよいとされたのか、「玉棚の」の句に関する記述も踏まえて、説明せよ。

■ 問題 11ページ、第一段落の傍線部(文科才・理工工)の句「じだらくに寝れば涼しき夕哉」に関する芭蕉の高評価の内容を、この句が宗次がそれとなく言った言葉から生まれた経緯と、同ページの第二段落の句「玉棚のおくなつかしや親の顔」の句成立の過程で芭蕉が述べたことを受けて作者が「その思ふ処、直すくに句となる事を知らず(Ⅱその場で思ったこと)が、そのまま句となる」とを知らず(Ⅰ)と感じている「とを踏まえて説明する問題。

■ 文末表現は「点」が望ましいが、「と」や「がよいとされた」などでもよしとする。
「」ので「」から「」など適当でない文末表現は、要素Bから【減点1点】。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【6点】

■ 傍線部 じだらくに寝れば涼しき夕哉ゆふへかな

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A3 考え過ぎることなく、 B3 自然に思ったことをそのまま句にしている点。

■ 採点方法 各要素単独採点 ■ 字数 指定なし。

【ポイント】

要素A【3点】 考え過ぎることなく、

要素B【3点】 自然に思ったことをそのまま句にしている点。

第二問 文科(五)「文科のみ」

「初めは、「面影のおぼろにゆかし玉祭」といふ句なり」(傍線部力)とあるが、初めに作った「面影のおぼろにゆかし玉祭」の句のどのような点がよくないと芭蕉は言っているのか、説明せよ。

■ 問題 11ページ、第二段落の「玉棚たまたなのおくなつかしや親の顔」の句が、もともとは傍線部力にある「面影のおぼろにゆかし玉祭」であったことに関して、「このもとの句のどのような点がよくないと芭蕉が言っているのかを、芭蕉の評価」「この分には古びに落ち申すべく候ふ」(「このままでは古くさくなくなってしまおうでしょう」と、それを受けて作者が「その思ふ処、直すくに句となる事を知らず、深く思ひ沈み、却かへつて詞しぶり、或あるいは心確かならず(「その場で思ったことが、そのまま句となること」を知らず、深く考え過ぎて沈み込み、かえって表現の流れが滞り、あるいは、詠みたいこともはっきりしなくなるのである)「**と**」と**思**っている」とを踏まえて説明する問題。

■ 文末表現は「点」が望ましいが、「**と**」がよいとされた」などでもよいとする。

「**と**」ので・**と**から」など適当でない文末表現は、**要素C**から【減点1点】。

・句読点の抜けは不問。

■ 基準 配点【5点】

■ 傍線部 初めは、「面影のおぼろにゆかし玉祭たままつり」といふ句なり。

■ 模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A1 考えすぎて、**B2** 表現が古くさくなり、**C2** 詠みたいことがはっきりしていない点。

■ 採点方法 各要素単独採点 ■ 字数 指定なし。

「ポイント」

要素A【2点】 考えすぎて、

要素B【1点】 表現が古くさくなり、

要素C【2点】 詠みたいことがはっきりしていない点。

第3回 東大模試 漢文 採点基準

(1)

a お忍びで b 出かけ (2点)

a 「微」の意味……1点

b 「行」の意味……1点

c a
a b
まじくと 処罰される a
てしよう (2点)

a 「当に…へし」の訳…一点

b 「罪を得」の訳…一点

e 「理科はa(監察官にb弾劾される)のを(2点)

a 「御史」は注がある……1点

b 「弾ずる所と為る(を)」の訳……1点

(二) 6点

自分の報告と魯公の言い訳との ^a 食い違いがないようにしたい ^c から。

a 「食い違い」の内容について……2点

b 「異同あらざらんことを冀ふなり」の要素……4点

c 文末の「〜から」「〜ので」「〜ため」は不問。

(三)(文科のみ)

酒楼に行っていて参内が遅れたことについて、^a口裏を合わせようとしたが、^b主君を欺くのは大罪だから、^d事実を報告せよと、^e魯公に言われたこと。(10点)

a 参内が遅れた事実の要素……3点

b 使者の側の事情であるから、不問とする。

c 「君を欺くは臣子の大衆なり」の要素……3点

d 「但だ実を以て告げよ」の要素……3点

e 「公の如く」そのものの意……1点

(四)理科は(三)

評している。(8点) ^a 真宗が、^b 魯公の、^c 正直で主君を欺かない点を、^d 忠実に、重用すべき優れた人物であると

a 「誰が」……2点

b 「誰の」……2点

c 「どのような点を」……2点

d 「どのように」……2点